俺が高校卒業したら死ぬ未来を変えるのは間違っている。

ブラックマッハ

【注意事項】

DF化したものです。 このPDFファイルは 「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にP

じます。 品を引用の範囲を超える形で転載・改変・ 小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPD 再配布 F ファ 販売することを禁

【あらすじ】

に憑依するのは間違ってるを第一章にしました。 プロに勝った事がある何度も憑依したバカが主人公の比企谷八幡

ないです。 この主人公は原作知識が全くないので、バカなので基本頼りになら

程の身体能力を持っています。 その変わりにとてつもなく頼りになるチート能力や 人間かと驚く

第二章になったのでタイトルの題名と関わります。

方法を俺は知らな 死ぬ事を知っていながら回避する事は、今まで俺は出来ない

異世界に飛ばされてしまう。 そして天気や体調など気にせず卒業後を終えて次の日になる時には 俺は転生する度にその体験を卒業式の日に強制される事になる。

世界に転生する。 飛ばされてしまうのだ。 瞬間に飛ばされたりする。 そして交通事故に遭ったり、ナイフを持った男にナイフで刺された 俺は泣きながら何度も死んでしまい新しい もう殺されるシーンに説明などなく、

それは同じル だが勿論クリア方法はある事は知っ ルで1000人が挑んで3人クリアしていたのだ。 て いる。 何故 知ってい

か分からない 俺はそんなクリア率0・3%に挑むのだ。 どうクリアすればいい \mathcal{O}

そしてこの世界にクリアしても戻れるかも分からない。 拒否する

それまでに俺はは最高な友達を作る事にするが、知らない人だけど残された時間は後約、2年6ヶ月。もう既に始まっているのだ。事が出来ない。

原作キャラには会いたい。

目次

俺は死なない	? 49	誠司はトオルと出会ってすぐに、いろはを紹介した理由はなんだ?!	43	電車でトオルが失恋を思い出してる時いろははどうしていた!?	今日の振り替えりと俺の失恋後の物語	俺が2回も振られてしまうのも悪くはないのかもしれない ― 31	い何かが起きる!: 24	比企谷八幡(比企谷トオル)は始めて小町以外の原作キャラに出会	死のカウントダーンが迫っている事に気がつく	恋する金髪美少女と王者トオルへの挑戦17	この派手な服装の男は誰だ!!目的は秘密ふざけるな 8	何で高校生活スタートからと言ってイベントが多すぎる 1	憑依するのは間違ってる	プロに勝った事がある何度も憑依したバカが主人公の比企谷八幡に	
54	49	!!			59	91	$\overline{4}$	会		1/	0	1		<u>ر</u>	

比企 ロに 勝 谷八幡に憑依する つ た事がある何度も憑依したバカが主人公 のは間違ってる

ぎる 何 で高校生活スタ ートからと言ってイベン が多す

公が向かう物語だ。 4月と言えば入学式である。 今回 の話は総武高校の入学式に主人

のだろう!! 入学式と言えば1年生学校に 通 つ 7 色 々 緊張 して慌て た りする

だ。 う。 ある。 余裕なのかと言うと、6時からのラジオ体操に毎日通うほどの余裕が この話の主人公達兄弟姉妹は慌てる様子も全くな バカ不良やブラコンなど様々な問題があるが、 そんな主人公達はとても優等生と思うかもしれない?だが違 バカは全員共通 V 0 どれ

端にある②の所まで飛ばして欲しい。 そんな馬鹿どもについ て軽く紹介するが、 聞きたくな 11 人は左下の

まず男の主人公から次は姉から年齢順に書くとしよう。

の選手に勝 の主人公に憑依したバカである彼は「陸上の1500メー 主人公の名は原作主人公の比企谷八幡で又の名をトオルだ。 った事がある男だ。」 トルでプロ

手になった事がない!!」何度かチャンスがあったのだが、 事に毎回し て何度も転生した転生者である彼は、 ている。 __-度も「陸上のプロ 高校に通う の選

まった。 そして高校を卒業したら同じタイミング それはいつかトオルが話す事だろう。 で、 何度も彼 は 死 λ で

の顔をした比企谷八幡である。 の比企谷トオルだと言い、先生に修正されてもう そんな不幸な感じで、見た目は目が死んでる細マ だが自己紹介する時は、 ッチョ 一度名前を言 必ず前世 で 原 作 |の名 通り

だが彼は正し い名前を言わず比企谷トオル八幡とな λ か変な名前

を言ってしまう。

ら名字は変わったが、 次に主人公の2歳上で金髪美人の比企谷鈴音だ。 名前は変わらず鈴音と言う名だった。 彼女は転生前か

人公の姉だった。 彼女は今回が初めて転生した美人な女性だ。 彼女の前世でも又主

彼女だ。 人の女性だ。 そんな彼女は不良に憧れていて、 決して主人公以外は殴らないと言う意志がある、 主人公を殴るのが、 趣味の怖 美人な い美

ていない。 前世の彼女の職業は女優で、 そして殴る役もしていないのだから驚きだ。 一度も不思議な事に 不良役 \mathcal{O} 仕事は

ては 次に主人公 らいない。 の 2 つ 年 下の妹は未来と原作通りの小町 で誰も憑依

来は青髪である。 彼女達は双子でもあるが 性格は全然違く、 そして髪の色が 達う。 未

願う。 かかる。 われたり頼まれたら引き受ける。 未来はただブラコンであって、 他の性格は全く分からない 他人も同じ考え方になっ 女性なのだが、ほとんど主人公 最後に未来は転生者で 催眠術 てほ には の言 と

小町は原作通りであるか ら解説しなくて 7) いだろう。

② ここからは主人公に任せるとしよう。

いろ。 主人公に叫ばせたら俺様だと思え。 自己紹介も終えたしな。 又新しい人物が出てきたら俺様がする事になる。 催眠術はそのうち後で関わるから待っ 切り替えるぞ。 ヮタ 7 7

主人公サイドスタート

ムの王様サイド終了

そもそも行く時間て言ったが大分時間の余裕がある。 さて俺は そろそろ学校に行く時間となったため向かう事にする。 約1時間30

るかな。 (久しぶりの高校に行くのだが興奮するけどしっかり学校生活送れ それよりもバカだから大丈夫か心配だよ。 気にしないで行

「じゃあ俺は先に行ってくるよ。 遅刻するなよ姉と妹共又な。

はないはずだ。 笑顔で手を振ると腹に思い切り殴られたのだがこれは絶対愛情で しかも笑顔でそんな美人な人は知らない人ですよね。

……それ実は姉です…

誰もいないのに何を言っているのだろうか。

「それは殴る相手がいないからだろう。 「気をつけていけよ。 車に轢かれるなよアホ。 少しは俺の事を心配してく 心配してるからよ」

見た事がない。一度も見た事がないから対応の仕方が分からない してるみたいでこれはどうしよう。 そう言った途端に悲しい顔をした姉がいた。 こんな今すぐ泣きそうな姉の顔 どうやら本気で心配

こう言う時は謝って許してもらうのがいいだろうと思った俺は

「俺が悪かった。ごめんなさい」

はイタズラをしてやったような顔で言う。 と言って直ぐ頭を下げた。 謝る俺を姉が見ると泣く 0) を辞めて、

「何言ってるんだアホか」

ですかね。全く分からないですね ハイ速攻で謝った瞬間姉にアホと言われたのだが、 どう言う事なん

聞いてどうする!!心配したのになんだよあの態度は) (解説役のトオルさん教えてもらってもいいですか。 ……それ

てくれる。 では未来にでも聞いてみるか。 小町と未来はため息をつ 教え

小町が先にな。

「まったくこれだからゴミいちゃんは」

「演技だよ」

超える程の事なのだろうか。 う言う事なんだ?だって俺は演技で騙されない自信がある。 そうですか。 演技ですか!!そんな冗談全く聞きたくないのだがど それを

違いない。) タイミングで笑顔になるて事は演技だ。 絶対演技だ。 演技に間

忘れていたけど、 て事で俺は演技が ゴミいちゃんて小町さんから聞こえたけど気のせい 分か るプライド を捨 てて信 じ る 事 に しま

アニメを見るか走って忘れないと無理だからやめて。) (うんきっと大丈夫だから気のせい に違 71 ない。 も しそう言われたら

「じゃあ行ってくるぜ」

「「「行ってらしゃい」」」

言った奴どいつだよ。 るから問題はない。 (真っ直ぐに前へ歩くのみ。 姉と妹共に見送られて俺は学校に向かう。 大きく腕を振りながら大股で歩くのだ。 俺だよ。 あここ右だった。真っ直ぐに歩くの 何で大抵誰だと思う人物は俺なんだ もう行き方は覚えて 7 11

服派手でカッコイイ!! 着てみたいな。 しばらく歩いているとヤンキーが一人いた。 流石はヤンキ 0)

このままだと本当にゴミいちゃんて言われるよマジで。

よ。

界が平和になるのだ。 な?俺は会った事がな 攻で振られた。良かったのかな?まあい 俺は本物のヤンキー見るの初めてだが千葉てヤンキ いけどさ。 そんなヤンキーが今ナンパし 7 のではな **,** \ か。 · が 多 それ て速

キー 作キャラな 彼女は誰だろう。 が更に彼女に近づ のかどうか、 俺と同じ学校の女子みたいだな。 いてるが他の人は誰もいない 分からないけどそれよりもやば 彼女はこの 1

ない。 (動け俺この足で助けろ。 バカだから計画立ても無駄だぜ。 助けるつもりなのですが、 行け俺の足) 助ける計 画

両方見る事が出来るポジションに ている足を前に一歩でも早く進める。 俺は怖いが、頑張ってナンパ野郎の所にビクビクしながら、 いる事が出来たので、 なんとか、ナンパ野郎と彼女を 後は説得する つ

まだナンパ野郎は彼女に近づいただけである。

「あのナンパ俺もしたいのですが」

「ナンダトコラ」

ごいな。 問題がない。 カタカナみたいな感じに聞こえるな。 だが俺は怖くない、姉で俺は慣れてしまったからな。 これがヤンキーの迫力かす だから

(それより俺が最初に言ったのがナンパ ープランだよ。 て何で、 ナンパするんだ。

「これだからゴミいちゃんはダメなんだよ」

いでしょう」 なんで心の中に小町が出てきたのだ。 俺はゴミいちゃ んではな

みた。 俺は慣れてると言ったがやはり怖か ったけど勇気を出 て言っ 7

どうするのですか?責任とれますか!!」 女が付き合ったとして、もしそれがキッ 「ナンパしようと思ったのですが良く考えてください カケで彼女がいじめられたら ヤ 丰

「責任取れない。考えていなかった。 ンキーの女子をナンパしに行くぞ。」 教えてくれてあり がとうな。 ヤ

な。) ら学校の事絶対忘れてる。 だ単純な男なのかもしれない。学校の行く逆方向に向かっているか (どうやらあの男ヤンキーの中でもいい人なのか 大丈夫か心配だが戻ってきたから安心だ そしれ な い ?

それよりもナンパされた彼女が心配だ。

りますからね。でも何も起こらなくて良かったです。」 「大丈夫ですか。ヤンキー怖かったですよね。 あのヤンキー 迫力があ

た。 方が好きで惚れた。 らハートマークが見えた気がする。 俺も怖がられたみたいな感じで無言だったので失礼しますと言 そして俺は走って彼女から距離を取った。 もしかしてヤンキ だが一瞬彼女の の男の 去り つ

俺が邪魔しなかったら付き合っていたら申 し訳な

(一体彼女は誰なんだ!! それにしても彼女可愛かったな。 原作キャ

えられるからサイコウ ラじゃないか?俺は知らないからそう思う。 なんだよ) 原作知らないて色々

る途中に桜見えなくて残念。 か 5 しばらく歩いている のだが、 桜が見えない。 ハア学校行 つ 7

助けるぞ。 断歩道を見ていたら犬がいる。 横断歩道を此処で渡って曲がればもうすぐだ。 信号はもうすぐ赤になるから急い 俺は近 11 7 た横 で

た。 路に置く事に成功する。 少しずつ車の音が聞こえてくる。 制服のため動きにくいが気にしない。 なんとか犬を安全な所に置けたので良かっ 犬を捕まえ手でなんとか安全の通 俺は走って一気に 加速する。

がってしまう。 と体ごと衝突し見事気絶するみたいだ。 小さな段差につまずき後ろに倒れそうになって、 俺は手で犬を通路に置 転ばなかったが右を向くとまさか、 いた後そのまま俺の足を のせようとしたら、 そのまま後ろに下 車によって俺の顔

(俺の人生は終わった。 又終わってしまうの かよ。

そう思った瞬間気絶した。

~それから3日後~

だろうか。 慣れてあんまり交通事故にあっ 俺は病院に三週間入院する事になったが元気である。 た感じがしな いのは頑丈な体だから まあ痛

だから早く家で食べる料理が俺は好きだから食べたい。 ご飯はしっかりと食べているしもっと食べたいくらい 食欲がある。

全く違う。 俺は今とてもしたい事がある。 学校に行きたいのかと 聞 か

ない。俺は走ってるのが好きなんだ。だから俺は怪我が つでも走れる準備を進めないといけない。) (しっかりとしたレース場で強いやつと走りたい。 そし 治 7 ったら 負けたく

以外基本一人になれる事がないから本当は腕立て伏せや腹筋をした そのため今も隠れてスクワットをトイレの 中でして 11

スクワットだってバレたら怒られる。 いて腕立て伏せをしたら看護師こよごれてヾ/S^ゝ/こヽ゜liいのだが、床が汚いのでそれも出来ないし、怪我した所をカバーして て腕立て伏せをしたら看護師によごれてバレるからしない。

やっぱり俺は早く退院しないと精神的につらいのだ。

入った時誰かが俺の部屋に入ってきた。 そして現在午前10時ちょうど俺が、 スクワットを終えて布団に

(初対面なのに、 やっと退屈を忘れる人と会った気がする)

新く

タイムの王様サイド

て話す。 さて今回は俺様が前回までのあらすじをしながら裏での悪さに つ

通事故にあった。 つもりはない。 谷八幡)は、一時間以上余裕をもって早く家を出た結果罠にハマり交 これから始まる高校生活を楽しみにしていた主人公のトオル(比企 罠に嵌めた犯人は神様であるが決して悪さをする

だった。そう、主人公は原作より速く学校に行っていたのだ。 面にもいない。 に轢かれていただろう。神様は犬を守るために時間稼ぎをしたの 本来なら主人公は交通事故には関係なく、犬が車に轢かれそうな場 そして犬はどうなっていたかは分からないが多分車

は、 たった一言だけだ。 キーがいたのを覚えているだろうか?その彼にナンパするように仕 向けたのは神だ。彼は簡単に騙されてしまった理由は神が言った 次は罠について話すが、これは犬を助けてあげるため仕方がな 主人公しかいない。その交通事故に会う前に主人公の近くにヤン 前話では書いていなかったが、周りに人はいなく助けられる人物

「君にとって運命の女性だと」

はり信じてしまい、ナンパしてしまったのだ。 たったそれだけでバカで人の言った事を信じるヤンキ \mathcal{O} 彼はや

で未来を伝えてはいけないのだから仕方がなかった。 なら何故、主人公に神が話せばいいと思うかもしれな 11

さてそろそろ主人公の話に戻すため今の状況を話す。

ら違う人物だ。 入してきた。侵入してきたて事は、病院の関係者や家族でも友達です 交通事故ににあって現在病院に入院している彼に誰かが部屋に侵

サイドで楽しんでくれ。 ではその侵入してきた人が、 誰なの か は 俺から話せな 11 から主人公

又なんかあれば主人公に「タイム」と叫ばせる。

主人公サイド

はない筈だ。 た目は高校生だが金曜日なのに制服を着ていないなら不良で間違い ちら様なんでしょうか?知らない人だが、どっかで会った事があるよ うな気がするのに中々思い出せない。 イケメン野郎の正体が分かりすぐに叫んでしまう。 し、イケメン野郎の知り合いなどいないため知らない人だ。 何 か物凄 く迫力が だとしたら彼なのではないかと思う人物が ある服を着ているイケメン男が現れたのだがど 思い当たる人物は誰もいな いる。 それに見 その

「お前もしかして3日前にナンパした男か!!」

「どうやら覚えてくれたみたいだな」

「勿論覚えているのだけどこんなにイケ メンだとは気が つ 11 7 な

(やはり不良てイケメンが本当は多い 分かるほどだぞ、 スゴいぜこれは。) \mathcal{O} かな?だって本当に男だけ

そう思ったが俺は一度も不良と会っていな い事に気 が つい

ろうか。 俺はそう思っている。 さっぱり分からない。 に歩くからだ。 それよりも何でこの男は学校をサボってまでここまで来たの 大抵バスを待つのを合わせて1時間くら わざわざバス乗らないと行けな ここに来るのには大分時間がかかるはずだと いしそれなり かかるだ

「何でお前はここにいる?」

いきなりそれ聞くのか。 いい度胸し てるじゃ な か!!

「喧嘩したくない。 お願いだから喧嘩 はやめよう」

「俺は簡単に喧嘩をする男ではないから安心してくれ」

俺は全く信じていない。 喧嘩をする訳ではない みたいだが、 そんな迫力が彼にはあっ Oで

るか認められるのかのどちらかだろうきっと。 て絶対しようとしてただろう。 11 11 度胸 じゃな 分からな **,** \ か は喧 俺でもそ 嘩す

れくらい知っているからてビビってナイヨ。)

れないか安心出来ないのだ。 にしたが、完全に信用はしていない。 だが誠司は勿論殴る準備はしていなかった。 俺だってヤクザがいたら暴力さ だから今は信じる事

郎に話しかけられた。 てるのかが、分からず恐怖を感じるのだ。 く全く反対でいい笑顔であった。 にこやかにナンパ野郎は笑い恐怖を感じる。 いきなり笑顔になると本当に笑っ そんな笑顔が怖 別に怖 11 笑顔 いナン で

「まあまあ焦るなよ。それは後のお楽しみにしよう」

「俺は早くそれを聞きたいのだが仕方がないから待つ事にしよう」

「そうだ。 らどうだ!!:」 面白い作品の漫画をあげるぞ。 中々面白いから読んでみた

「なんだこれは知らない 漫画だが、 作者は有名な 人みたいだな。

タカナのためとても嫌だが、 トオルシロウてペンネームが嫌だ。 俺は一度も読んだ事はない作者で、 頑張って欲しいとは思う。 俺の名前のトオルで更に同じカ 人気は今一番あるのだが名前が

と思う。 本当は読みたくないのだが、せっかく貰ったのだから読んで見よう 人気が一番あるから楽しみだ。

てきやがった。 「顔洗いたくないか?俺の妹の未来が綺麗なバケツに大量 良かったらそれで、 顔でも洗ったらどうだろうか」 \mathcal{O} 水を持 つ

「なら勿体無いから使わせて貰うぞ!!」

罠があるかもしれないのに何も考えずにね。 はいお客様聞きました。この人何も考えず顔洗おうとし 勿論罠などないけどね。 てますよ。

を洗えになるがまさか流石にしないだろうなと思う。) (それにしてもお見舞いでいくらなんでも大量の水はどうかなと思 最初はコレ で布団を汚してかと思ったが絶対に違う。 なら顔

としては関係ないが貰えた事だけでとても嬉しい。) (せめて2リットルくらい そもそも水で布団を汚す考え方はいくら馬鹿でもしない のペットボトルがい いよ。 完全にお見舞い 、と思う。

速く復帰しろとうるさい手紙と果物が届く。 他にお見舞いで貰ったのは、俺が参加してる陸上のレ ス会場では

やがれこの野郎あの野郎。) えなさい子供じゃな (俺は車に轢かれたのだから仕方がないでしょう!!少しは待つ事を覚 いのだから。 復帰は直ぐにするから安心 してい

て遠慮なく食べていいぞ」 「おいナンパ野郎リンゴ食べ て \ \ 11 ぞ。 冷蔵庫に 入 つ 7 11 る か ら つ

向かう。 「ありがとうよ。 はとてもかっこいい。 そう言うとナンパ野郎は顔を洗うのを辞 冷蔵庫からリンゴを取って幸せそうにゆっくり 美味いなこのリンゴ。 不良じゃなかったら絶対モテるはずだと思う。 もっと食べたいが食って 8 て獣 のように冷蔵 食べてる姿 \ \

「仕方がない沢山食って 7) いぞ。 好きなだけ食べろ。 ナンパ野

れる。 ワットしただけで疲れてしまうし、 かれた所の傷が更に痛く感じる。 俺はそう言いながらべ ットにゴロンと寝転がっ やはりベットは疲れが出るし癒さ 大分無理してしまったから車に轢 た。 やはりスク

る。 来ている。 のビデオを撮ってるついでに、そのレースの関係者から姉がもら 癒され 果物はリンゴ以外にも巨峰やミカンなどがある。 ながらナ ンパ野郎を見ると、 優雅にのんび り果物を食べ レースの大会 つ 7 7

言ったが復帰は必ずする!! いるが、 ついでに俺は、 当分病院に入院したのでゆっくり休む事になる。 休み 0) 日以外ほぼ毎日その大会の V· スに さっ 参加 きも して

読みたい漫画や本を大量に持って来てくれている。 果物を届けてくれた姉からは特にお見舞い品 はな 11 変わりに、

場を見た事があって凄く否定されて流石に傷つ のだからブラコンなのか?姉の友達がブラコンなのかと聞 (何も注文してな いのに何で俺が読みたい漫画や本分かる いたな。) の ? かれ 分か た現

のリンゴを食べる前に俺の疑問の答えを言った じゃなの?そんなイメージが俺にはあるのだが。 小町からはお見舞いとしてアジサイを貰った。 アジサ ナンパ 野郎は イて夏

ワ ハ。 おい お前アジサ イを貰ったみたいだな。 アジ サ イ \mathcal{O} 花言葉

葉知らないから良いけど。 前女性だったんだなワッハハー!!こりゃあげた人の顔が見たいぜ!!」 (え俺小町に女性だと思っていたの?俺本当は男なんだぜ。 知っているか。 しょうね小町!!俺が困るからね。 【元気な女性】て意味だぜ。 しっかりお店の人に花言葉を確認しま お願いだから確認をしっかりと宜 これは最高に面白い。 俺も花言

すると最後のリンゴを食べ終えたナンパ野郎が話す。

「さて果物食べたしまず学校をサボった理由を言う。

たし かったが、 あれは4月の入学式の事だった。 神様に運命の女性だと言われたのでナンパする決意をし 俺はナンパしようとは思わな

なるよ。」 「あのもう少し先まで話して くれな 11 か な。 これ 日 が暮れ ちやて

ノーそれはダメだ。それは出来ない」

「タイム」

主人公サイド終了

タイムの王様サイド

話長 いから俺がまとめておいた。 これ の後にその後の続きを主人

公にする。

①【何故ナンパ野郎は学校をサボったのか?】

やってしてるのか詳しく話す。 ナンパ野郎は学校をサボっていません。 学校にいます。 ではどう

うだ。 彼には分身を作る事が可能でそして殴られても分身は消えな 消すにはそのナンパ野郎が解除と言わないと消えない いそ

最強である。 1人しか作れないが、不死身である。 今回は分身がコッチに来て、本体は学校にいるそうだ。 更に分身は顔等自由に変える事が出来るそうだ。 交通事故に遭っても無傷だから ただ分身は

②【誰からその能力を獲得したのか?】

トオルの転生させた神様だそうだ。 一人一つ叶えてくれる。 つまり彼も又この神様に転生した 流石神様でほぼど んな能力を

るだろう。 人物だと言う事になる。 トオルは勿論持 つ 7 いるが直ぐ話す事にな

30分も話したぜ 以上だ。 本当にこ これだけ \mathcal{O} 話 な 0) に長 しようとしすぎなんだぜ

タイムの王様サイド②終了

主人公サイド②

は俺だけなのかな? 何とか話を理解出来たが物凄く話が長くて聞くのが つらか った

この男許さない) も話してナースさんが来たのは良いがタイミング悪い。 から厨二病の友達がいるんだなと可哀想な人だと思われたよ。 (いや長すぎるから少しは聞いてる俺の事考えてよ。 更にさ、 分身の話だ 3 絶対 0

待っていろ。」 「よし次にお前のせいで声が 枯れれ て来たよ。 ド リンク買 つ 7 から

たりするのだなと気がつ 喉が枯れたにしては元気があるように見える いた。 のだが、 分身も喉乾 11

はいけないて教わってないの?」 「俺のせいにしないでそれはナンパ 野郎 のせい だから人のせ に して

よし決めた。 をしっかり聞いて突っ込んでくれたのは 「俺誠司て名前なんだぜ。それにしても良いじゃ さて今後が楽しみだ」 いないな。 な 会っ かし た事がな 俺 の長い話

い男な の質問に答えるつもりは少ししかな そう謎の言葉を言って飲み物を買いに行きやがった。 のだ。 いため質問に答えてくれ この男は俺 な

が から買ったら甘くて最高だった。 いた。 俺も しばらく飲みながら待っ はじめてそのデザインを見た瞬間何故か体が勝手に飲みたくなる ただ後1回飲んだら冷蔵庫のマッ缶は全部無くなってしまう ベットが立ち上がり冷蔵庫からマッ缶を取り出して飲んだ。 ていると、 そこからはほぼ毎日飲んでいる 十六茶を買って堂々とイケメン

(俺にイケメンの友達などいないから知らない人ですね。

……それがなんと今日から友達になったて凄いよ。

「お祝いだからマッ缶を買ってこい未来」て言いたいけど学校だよ。

ら美味しく味わえよトオル」 「ほらよお前はスポーツドリンクが好きなんだろう。 買 つ 7 お いたか

ペットボトルを買ってくれてありがとうな!!」 「ありがとう誠司。 これ大好きなスポーツドリンクだ。 2 リ ツ

「当たり前じゃないか俺らは友達なんだからよ相棒。 は相棒て呼ぶぜ」 て事でこれ

「いいな相棒て響きとてもい かったのだ。」 \ <u>`</u> 俺 ___ 度でもい 11 から相棒 7 呼ばれた

いから凄く嬉しい。 俺は一度も相棒と言われた事がない し友達だって言われた事もな

可能性も十分にありえるのだ。 われる機会は全くない。だから友達が俺と友達ではな 友達て自然に出来る感じでで気がつ V って いない内に出 いと言われる 来るから言

事は全く覚えていない。 ろうか? そして俺は一度も友達だと今日まで聞いた事が1回もなく、 それは俺が陸上系の友達しかいないからだ 聞いた

(さて気分を切り替えよう明るく 切り替えよう。 俺 なら出来る筈

そんな俺を急に真面 目の顔にな って 誠司が見てい る か らビ ツ クリ

「さてお前にやって欲しい事があるのだがどうだろうか?」

ど入院中なの分かってくれない」 「俺入院中だと言う事を忘れていない。 俺元気に見えるかもしれ んけ

くれるか?」 「勿論その後にして貰う事になるはずだから安心しろ。 て事 でや つ 7

「なら原作キャラの女性と会えるとなったらどうだろうか?やるしか 「やるはずがない じやな か?俺はめ んどくさい のが嫌なんだ!!」

ないだろう!!」

な。 狂っ 良くなりたいとは思っているけど、この目で大丈夫かな。 それなら別にい たようなもんだよ。 いのではないかと思った。 ウィルス扱いされたりして大変だったから 知らないキャラだが仲 それで人生

「まず最初にやる事を説明してくれたら考える 内容を教えたらやる事は決定するが いい 0) かな?」 から内 容を教えろ」

気がする 「秘密時点で既になんか怪しい感じが出ているのですが、 のは俺だけなんですかね」 大変そうな

よ。 怪盗になって沢山の宝石を盗むの。 それとも誠司を朝起こしに行くの!! 絶対捕まる それも嫌だからね。 から俺 は 嫌だ

「安心しろ。 ンとやって、こうすれば終わる」 バイト代は出るから安心しろ。 後は俺が自転車でド ツ

それに安心て2回言った事は更に怪しいだろう」 「あの全く分からないのだが説明求める れしないといけなくなるから聞けないじゃんかよ。 のはダメじ うやん。 ふざけ 聞 んなー たらそ

て行きやがった。 何も答えず俺のセリフを無視して、 何事も無か つ たか のように つ

るの怖いぜ。 んし喧嘩はしないけど、 そう俺が言えたらかっこい (マイペースすぎだろう。 勝負するのはオセロだったのだがな。 オセロで勝負してやるからかか あの誠司て男は。 **,**) のだが無理に決まっ ふ ざけて 7 いるし喧嘩す つ る て来い Oか から

~それから二週間後~

だろう。 たけどもう直ぐ終わるのだ。 何事も無く、 病院を退院するのも後2日で後 あの男も現れず平和な時間だったがもう直 自由が帰ってきたのだ。 一週になるが :随分長

のだろうか気になるが本を読むのに集中したい 立てて走っている。 今日は日曜日の午後5時である。 病院の中では走ってはいけない筈だ。 ものすごい勢い ので無視する。 、 で 誰 かが足音を では 誰な

人の金髪美少女の事につ したいが周りがうるさくて集中が出来な いて叫 んでいる。 周りはたっ た

「金髪美少女が階段を華麗に美しくはないのに力強くて凄くいい」 「金髪美少女が来てる。凄く美人だ。ナンパしてくるから待ってろ」

「オシャレな服を着てるぞ」

知らない人ですね。きっとイケメン野郎の彼女に決まっている) (オシャレな服を着た金髪美少女、そんなの俺の友達にはいない から

「おい金髪美少女が停まったぞ。 此処に彼氏でもいるのかよ??

て空いた。 そしてなんとタイミングよく俺の所に誰かがドアを開けようとし

それはなんとオシャレな服装のきんぱ美少女だった。

続く。

恋する金髪美少女と王者トオル ^ O

主人公サイド

シャレな服を着た金髪美人に知り合いはいない。 の方で知らない人だ。 からなくなる 金髪美少女がドアをノックして開けて入ってきたのだが、こんなオ 知っていたとしてもオシャレで誰なの 今回は本当にガチ

俺はもう少し待ってほしいので言う。

「少しお待ちください」

ドアを閉めて戻ってくれた。 ひとまず安心だな。 そん な余裕

を片付けないと比企ヶ谷家の恥だ」 (どうしましょう。 どうしましょう。 「美少女が 1 る \mathcal{O} だからお

と言われるかもしれない。

量に置 性は事実で男じゃないー 隠すぞーー。アジサイは花言葉で「元気な女性」だった気がする イレに流すかーー。 未来の水が邪魔だ。 いて隠すーー。 小町の名誉のためにも俺の為にもアジサイを そして小町が買ってきたアジサイも漫画を大 転んだら大変だ 未来のバケツの

拭く。その後乾 なった。 麗にできないか?近くにティッシュがあるから使おう。 りかは綺麗になるだろう。ティッシュを3枚濡らして絞り床を全面 後は床だがあいにく掃除道具がない。近くになんとかして床を綺 いたティッシュで濡れた所を拭いて多少は綺麗に 使わな

「どうぞ。中に入ってください」

彼女はドアを開けて入って来た。

「大変大変」

を着ているのかが不思議だ。 声で姉だと分かったが、な んでこの姉はめちゃ くちゃオシ ヤ

言っていた。 「絶対にオシャレな服は好きな人が出来るまで着な <u>,</u> と姉がそう

した姿を見た事がない つもは制服かジャージ、 パジャマや部屋着の彼女で目立つ服装を

多い気がしたが、それだけは譲れなかった。 た程だが、言う事を聞かなかった。 服に興味が余りない未来からもっとオシャ 姉の目に脅されてびびって何も言えない。 大抵未来の言う事に賛成する事が 小町も何か言おうとした レな服着たらと言 わ

が、 勿論女優の仕事をしていた時はオシャレな服装を着て 仕事と好きな人が出来た時以外は着ないと決めているそうだ。 いたそうだ

あるかもしれない。 になれないと知っておきながら言ってしまい少し恥ずかしい。 画を撮影する所では無い事は分かる筈だ。もしそうだとしたら、 か俺が映画の主人公になるのかよ。 し、どうせ俺はヒーロー系の映画の悪役みたいな役ですよね。 そのためまさかここを映画の撮影場所と勘違いしている可能性は 撮影場所なら不思議ではないが、ここは病院で映 めんどくさいからやりたくな 主人公

ろうか。 くらいだから問題無いと思う。 じゃあ主人公はやはりイケメンヒーロー役でどんな奴がやるんだ 姉がヒロインみたいなオチですかね。 誠司ならその役に合いそうだしな。 身長も同じ175センチ ヤンキーで強いだろ

な感じだ。 これ以上映画の事を考える暇などな **** ` \ もう俺 0) 姉 が

聞いてくれるのかな?殴るよ」

「殴る前に言ってほしいのだが、 人でも出来たみたいだな」 ビンタだけじゃん。 それより好きな

やっぱり姉に好きな人がいるみたいで安心てよりは残念て感じだ いや元々好きだったけどさ気が つかなか ったな

気で怒るからな。 今笑顔でいられるのも全て姉のおかげだからさ。 ったら許さないからな。) つはどんな奴なのか気になるが、 が姉は優しさを持っているんだ。 それは一番困ってる時支えてくれたの もし悪い 奴だとしたら俺は本 そんな姉が好きだ。 笑顔で笑えな は姉だ。

「どんな人を好きになったんだ。 教えてくれよ姉さん」

「陸上選手に憧れる高校生かな」

ここにいますよ」て言いたくなる。 メンじゃないとダメですよね。 (笑顔でそう言われたらムカつ **,** \ 7 なら俺でもい しまう。 陸 上選手に憧れる男が いじゃな \ \ か。 イケ

つい知らない陸上のイケメン イラつきながらこう言う。 高校生に嫉妬 7 しまう。 セリ フも

な人だろうな!!」 「ムッムム高校生か?年下が好きなんだな。 更に 陸 上好きて 俺 みた 7)

「そうだよ。 そんな人。 それ 以上は教えません。 これ から が 楽

認めない。) 俺の姉を惚れさせやがって、この野郎あの野郎。 ムカついているのだ。 (気になる!!これが からか 実は俺姉に殴られたかったのか?違う絶対に わ れ て気分な Oか?お のれ 俺はなんでこんなに イケ メン高

で改めて今日惚れたんだよね」 「でも惚れた瞬間は教えておく。 走っ てる姿に始めて会っ た 時 画

は感動されないて酷くないな?そういえば姉に俺の走っ しか見せていなかったな。 (ハアー -、俺の方が走りに関しては感動させられるのだけど、 なんかいうか心の中だけど てる姿一度

の知らな 「とりあえず良かったな、俺の姉は美人だから最高に運が いイケメン高校生に送る一言」) 7 いぞ。

をしてしまい、 ば あったが振られる事が決まっていた。小学1年生が音楽の先生に恋 俺はなんとしてもこの空気を変えたいと思ったのだけど何を言え いのか分からない。そもそも一度もそんな機会は…なんと1度 だがそれ以来そんな機会はなかった。 からかわれてしまい振られてしまった男が知り合

言えなかったな。 るかが難しいと困ってるそうだ。 逆にそう言えば告白されて困っていた女子がいた。 ダメだな恋愛系の話は俺の悪い所が出ている。 その時も大変そうだなくらい 返事 でどう断

「あそうだ。走ってる所を見せてくれよ。」

「ハイハイ」

だ。 せイケメンなんだと分か きり言えない、 象として好きだと思われるのは…… そう言いながら携帯で準備 もっと聞 いてほしか 情けない。 つたの ったから聞きたくない。 してくれているが機嫌が悪い か?それは嫌だよ絶対に。 11 \ \ 11 や ーだー。 それに俺が恋愛対 なんではっ もうどう のは 何故

て姉が左につけた。 準備が出来たみたい で動画を再生する。 俺 は右にイ ヤ ホ ンを つけ

プロ級にははじめての参加です。」 そして2人目は逃げの王者トオル選手に憧れてる高校生牛虎君です。 で注目選手は2人です。 スタートまでもう少しです。 一人目は元高校生最強の大学生湯月君です。 今回 のプロ級 \mathcal{O} 5 0 0 メ

じゃないか。 ら俺宇宙にジャンプして行ってしまうかもしれない 後悔しないでよ。 へえ高校生でプロ級に行ったのかまだ5人しか 尊敬してるのが俺てのが実に良い。 目が嫌いなんで尊敬するの無理ですとか言わ **,** \ \ \ な のだけど後で 11 から た

君です。 もどちらも負けていません。」 以内には入っていますよ。 「湯月君は王者と呼ばれた男達とプロ以外には負けてい 後5回勝てばトオルを超える事が出来ます。 そして大逃げで無敗の12連勝中の 戦績 ませ は 2 ん。 3 着

そして2度目だからたいした事な 言ってたような気がする。 (あのさ目をキラキラしながら見てるけどさ目疲れな イて言い かにも優等生ですからと言って勉強出来ない いそうな見た目だぞ。) もしかして姉さんはこの高校生が好きな いよね。 まさかさっ のですね。 11 か き高校生て 心配だよ。 ダサ

見た目で判断するのは良くないな。

(ごめ を許してください。 スを言いますね。 んなさい 牛虎君。 馬鹿な俺が出来たら凄いけど出来る すみませんでした。 僕を尊敬 してくれたのに お詫 びに走り方のア 見た目で のか!?:) 判断 ド

「始まるよトオル。準備はいいかな?

「ああうん大丈夫問題は特にないから始めよう」

この世界では一度も言われた事がないからな。 分からないが優しい姉さんだ。 姉さんの優しい声久しぶりに聞いた気がするけど覚えていないな。 いつも不機嫌で良く

れるんだけどさ、 (そんな姉が今は何か落ち着くんだよね。 本人には言わないよ。 優し 1 友達みた V) でさ癒さ

そういえば俺の姉は……レースが始まった。)

来ますね。 差を引き離す。 比企ヶ谷トオルのポジションですから誰にも譲らない。 「さあ一斉にスタートしました。先頭はやはり牛虎です。 これはトオル並みのスピードある大逃げで期待が出 グングンと 大逃げ王者

ションで譲らない見たいですね。 に一瞬で3番手これは凄い」 さあ元高校生最強の大学生は3番手。 初めての大外からスター 相変わらず彼も 3 位 したの のポ

されてるな。 処にアイツが 俺なら何処にいる先頭か。それとも最後方かどちらかだろうな。 ホウやはりそこにいるのか牛虎。 相当な実力者だがスタミナが保てるの いれば更にキツくなる。 湯月さんはここに かが心配だな。 るが大分離

レースはどうなってる実況

「さあ、 た。 か? これは凄いレースになる」 一気に並びました湯月が並ぶ。 もう二人しかいない。 此処からは二人以外相手にならな 勝負に出た湯月が勝負に出ま

だこの時ではないはずだ。 マズイかもしれないぞ。 姉から質問される。 調子が悪 11 0) か湯月 は。 焦 I) すぎだ。

「どうこの作戦をトオルはどう思う?」

「湯月の罠に引っ掛かる事が出来れば湯 月が勝てる筈だ。」

「トオルがそう言うなら間違いはない」

何で俺は此処に出てきた。実況は

もしや牛虎を焦らせてるのでしょうか?だがしかし、 麗に曲がった湯月が牛虎に並びそのまま追い抜かした。 「牛虎此処で更にスピードを上げた。 ムは綺麗なままです。 此処で第一コーナ 湯月は此処では勝負にでな ーをカーブする。 今はまだ牛虎の 流石綺麗な

のすご コー ナーの曲がり方でプロを越えるコー い拍手が響いています」 ナ の実力者。 観客からも

% の れは9 追い上げで集団を抜いたみたいに先頭に追いつける おっと先頭 な牛蒡抜きで今集団を抜いた。 は?そうだろうな、此処で久しぶりの勝利を目指 か?運咲にとってこれはチャンスになった。 「なんと此処でもう一人の選手が来た!!運咲が1人、5人抜いて見事 じ考え方なら牛虎は湯月に勝てるかもしれないだろう。 い男です」 そうか、もう牛虎以外他の選手に負けな 可能性だから無理するなよ牛虎。 0%で牛虎との対決は、湯月の勝ちだろうな。 の二人のペースが少し落ちている。 今先頭を目指すが間に合うの そうい 11 と思 いぞ落ちついてる。 最後方からのもの凄い それを待っていたの つ ている 7 だがもし俺と同 のか?流石運が 11 る それが からな。 \mathcal{O} か 湯月 0 ~

な ナーを曲がったあたりで決着が着くだろう。 のだからもう勝てるだろう。 俺はこの運咲男が い中学生なのだからな。 勝 つと思っ もうこれ以上見ても展開は 俺らしか負ける所を想像 7 **,** \ る。 彼は 口 ン グスパ する事 最後 0) コ

牛虎が を最終コーナーで引き離す事が全く出来ない!! 俺の予想通りレースの展開は変わらず、 これで牛虎の敗北は決まっただろう。そのはずだが いる状態で変わらなかっ た。 そのまま最後のコー 先頭は湯月で、 湯月が すぐ後 ナーに曲 ろに

オリジナルの ナーの曲 湯月のコーナー がり方を見ただけで、 フォ の曲がり方は理想的だが、それを4 ムでだ。 牛虎はマネする事に成功した。 回く らい それ 0) コ も

き離す事に成功する。 まった。 子のバスケの そこで同 そして拍手をする スで最後のラスボスだと言ってもい 瞬の出 ZONEのライバ 来事で驚いたがZONEに牛虎は入ったのだ。 ンみたいな状態にな。 暇もない勢いでなんと湯月を軽々と 更に引き離す。 ル運咲が現れる。 そこでも いだろう。 そして5メー の凄い 運咲こそがこの 拍手が起きる。 抜 くらい か 7 引

(さあ残り直接20 0 メ ル勝つ 0) はどちらだ? どっ ちが 強 \ <u>`</u>

どっちの方が凄い走りを見せる。 さあ俺をもっと先まで楽しませろ。

流石運咲差を縮めて行く。)

「グイド

メートルでおしまいだ。これで終わりだ。) す事は出来ない筈だが面白い。 (もの凄い迫力のある足音だ。 此処で更に引き離すのか牛虎。 もっと見たいが残念ながら後1 引き離 0 0

離してゴール。 えない、まさかもう運咲の足音は聞いていた。 運咲の凄い加速が出る足音が聞こえない。そして牛 運咲は3着で湯月に抜かされてしまっ 馬鹿な。 た。 虎が 更に 何で聞こ 引き

えた。 運咲は負けたのだろう。 俺は巻き戻ししたがZONEに牛虎が入る時に、 タイミングが速すぎて運咲はバテたのだった。 運咲の足音が聞こ どっちにしろ

「待ってます。 トオル先輩。 戻ってきたら直ぐに勝負です」

けないために スで俺は勝てたかどうかを検証している。 それから俺は姉に好きな人が出来た事も寝る事を忘れて、 次のレースにこの男に負 その

つずく

キャラに出会い何かが起きる!! 比企谷八幡(比企谷トオル) 死のカウントダーンが迫っている事に気がつく は始めて小町以外の原作

もう既に戻ってきたのだけどな。 さて俺はなんと今日ついに入院の期間を終えてやっと家に戻れる。

がやったーー、凄く嬉しいのだが自由で家に帰ってきたぞ。 と手を両手を上げ下げしながら喜んでいる。) (俺の高校生活が帰ってきたぞ。 何故喜ぶのが学校なのか 分からない バンザイ

までお兄さんは休みになったよ。」 「お兄さん喜んでる所申し訳ないけどさぁ。 学校ゴールデンウィ

は一つで逆ギレだ。そうコレしかないのだ。 たった一言で俺は絶望して喜ぶのを辞める。 こうなったらする事

られているな。 「えそんな、俺の学園生活はまだ始まらないのかよ。 俺の学園生活にさ」 オイなんか逃げ

「ささっと切り替えろ。 馬鹿なんだからトオル。 殴るぞ」

「殴られてはいないけどビンタじゃないかよ」

パクトを全く忘れていないから夢は違うだろな。 としたら雨でも降るのかもしれない。でもな、 夢だったのか?夢だったなら納得出来る気がする。 れはなんだったの?あの優しい感じの姉は一体なんだったんだよ。 姉の迫力ある言葉は相変わらず怖くて凄いな。 あの日見たレースイン 先週の日曜日のあ あれが夢でない

だった。 なると確実に好きな人が出来た事は確実だ。 か?俺は殴られていないのだから夢ではない。 …いや絶対に夢じゃねぇよ。だってよく考えたら分かるじゃな つまり絶対にこれは夢ではない事が決定する事となる。 今回もビンタだけ

「プルプル」

思ったのだろうか? んか企んでいるのか?そう思ったが俺の陸上関係者かもしれないと 電話に気づいた姉と未来はどっか行ってしまった。 「プルプル」それなら納得だ。 「プルプル」な

筈だ。 がある。 するかな!!怪 話せるらしい。 さて電話が掛かってきたのはいいけど、 「プルプル」だが話の達人は、 まあそんな人は、 しい人の電話はマジで嫌だ。 30分くらい知らない人と話をしていたと聞い 「プルプル」 知らない人でも間違えてかけても 知り合いにいないけどな。 知らな 誰だって、そうに違い い人からだから無視

てか「プルプル」の電話音がうるさくて…「プルプル」

(…ハァ仕方がな よかったよ。) い電源切るかな。 …と思った瞬間停まっ たみた で

「ピロン」今度はメッセージで、誠司だとさ。

ろう。 れ。 「前の続きの話を実行する準備が出来たぜ。 宜しくなトオル!!コレが俺の家の写真」 さぁ決断をしろ。 決まったら此処に来い。 考える時間はもうい 嫌ならメー で断

るぞ。 そうな家に行けと言うのかよ。 さてじゃあ決断は 最初に聞かれる事はこんな感じだろうか? でた。 こんな所に行きたくな 絶対迷子になったら不審者扱 11 0 11 かに も され

「何故目がなぜ死んでいる」

- 普通の目で怪しい薬もコンタクトもしてないですよ。

「信じられるか。 怪しい人物だ。 疑わしい人物だからえ捕まえよう」

て感じで捕まりそうな気がする。 大人になったらそうなる筈だ。 簡単な事だ。 自分を追い込んでしまっ 怪しい者は警察に電話すれば良い 実際に捕まった事はないのだけ ている。

お兄ちゃ 走って向かったら、 んせっかく友達出来たから行ってあげたら。 いい運動になるよ。 _ お 兄 ち

「分かった行きますよ。 走れるヤッホーサイコウ

てどれを着るか迷うな?どれも良いけどどう いな不思議な顔をした未来が 俺は急いで携帯を持つ て自分の部屋に向かう途中、 いたけど無視した時、 しよう?どうしま 部屋に着いた。 何があったみた

「お兄ちゃん急いで時間がないんだから」

さてじゃあ急い ド イツのチ でこれを着て ムのサッカ いこう。 Oユニフォ や っったし ムを着るぞ。 Ĭ. 黄色

陸上用 で俺は財布もその のズボンで行こう。 チ ム を使 つ 7 いる。 ズボ ンは **,** \ つ も 履 11 7

う。 怒られる。 は必要だと俺は思う。 コ 捕まる事が前提になる \mathcal{V} で多少はスポ ーツマ さて良い気分になっ のはとても嫌だが、 ン 7 感じで警察が てる暇はな 来て あの家にスポ も掴 11 ま から ら な ツマ 11 町に だ

あるぞ。 ゴも買うぞ。 いこう。 カバンに水筒 コレ 3 は俺 0 とア 0 が 円でイチゴを大量に買うぞ!!喜んでいたか メ レースに出て貯めたお金だ。 を入れ て財 布 には 3 0 0 0 本当はもっ 円あ る か 5 と沢 ら つ 7

機に乗る荷物検査より緊張した。 顔をしていたけど、ギリギリ服のチェ に行く準備が出来たと伝えた。 よし行く準備は出来 無事に俺の部屋から通過した。 たから行 直ぐ服を確認 つ てくるぜ。 コレでもう怖 ツ クの小町審査には引っ掛 俺はド してもらっ いものはな ア を た。 開 \ <u>`</u> け 微 7 から 飛行

だが俺は途中回避して、反対に小町を玄関まで連れて行く べきだろう。 に妹とはいえ、 そのまま小町は俺をグイグイとエスカ 女子に対して押されるのは嫌なので男である俺が ター みたい に · のだ。 押される :押す 流石

程嫌わ も言わ 銅像動かすの からだろう!! ドラクエの れてい な か つ 嫌い ない た。 銅像を動 な のだ。 流石に細マ んだけどな。 か よかったよかっ し てるみたい ッチョである俺を押す それに妹に押される事はそこまで で楽し た。 押す人が代 い!!本当は 0) は 大変だ わ ド っても ラク 工 つ 何

「じゃあ行ってくるよ小町。 い地図。 小町にも紹介 あ住所知らな てね~そして誠司さん 11 0 小 町 に宜し 知 つ 7

ろ この誠司は。 うせ無駄だろう。 会っていた。 俺はこんな怪しい人の場所を小町に教えたくな い男だぜ。 そう言えば誠司俺が入院してる コレ が不良の情報力ですか?凄い実力を持っているな なんで誠司 \mathcal{O} 事を知って いる のも知 \mathcal{O} 11 か。 · と 思 って 小町と既に ってるが

がついたら降りた駅に戻ってきてしまった。 そして警察 の場所が何処か聞い ても分からず、 又迷子にな った。 気

の人に聞い

て直ぐに駆けつけてくれるらしい。流石頼りになる男だな。 に戻ったから迎えに来いと送った。 俺は仕方がなく誠司に携帯のメッセージで迷子にな すぐに迎えに行くと返事が つ て、 0 つ

のこと知らない り可愛い少女がいたのだった。 俺は5分待っているとあら不思議な事にそこには美少女とい のだ。 なんかよく分からない。 髪は茶髪だろうか?あ いにく俺 は髪 うよ

「ああ目が死んでる比企谷は僕だと思う。」 「目が死んでるので間違えではないはず。 比企谷さんですよね?」

生したけど気がついたから良いじゃないか? るはアピールポイントなのだ。 初対面だと緊張して僕て言ってしまう。 まぁそれに気が 俺 にと つくまでに つ 7 目 が 何度も転 死 6 で

と思うね。 いと誤魔化して 今だって目のおかげで気がついてくれたのだか 迷子になるよりはましだ。 いるだけなのだが。 ただ特徴 が ら感謝 な 11 か ら仕方がな L ても良

「コッチです」

「コレはご丁寧にどうもありがとう」

メッセージが来てた。 (あれおかしいぞ。 なんで誠司の野郎は迎い 返信しよう。 に来なか つ た のだ。

「腹空いたから飯食べてるから代わりに原作 彼女は誰なんだ。 原作キャラて嘘じゃな キャ ラに いよな? 頼ん で お

「マジ!!信じて。 お腹空いたからあとで ね。 もうメ ッ セージ 送るなよ

良くないけど、 おいどんだけ飯 7 か返事返すの早すぎる。 俺も短期な所ある \mathcal{O} 邪魔して ラ つ んだよね。 **,** \ てる 0) だこの だからさ仕方が 男はさ。 期は

いてみるか まず彼女は 旦誠司 の友達な 0) か。 それとも一 体誰な んだろ。 聞

「あの貴方は誠司の友達なの?」

「いいえ。 いとこです。 誠司兄さんの友達ですか?」

ペースだよね。 「うんまぁ友達だと思うけど相棒て言っていたし。 自分が中心に世界が回ってるような感じでね なんか誠司 1

です。 「そうなんですよ。 ムで負けて永遠に言わないといけなくなったんですよ。 ひどいんですよ。 誠司お兄さんていうのも罰ゲ それと此処

んだよな。 いなかったら君は天才なんだと褒めてあげる。 そんな罰ゲー 馬鹿な男が転生したら絶対やる事だと思うよ。 ム俺もした事はあ って勝っ たけど何も言わ なか もしして つ

階段があって高くて更に迫力がすごい」 「そうかそれはひどいなぁ。 此処が誠司の家かよ。 迫力が満点だな。

ですよ」 ですよね。 コレも罰ゲームで凄くな 11 · と 思 つ ても言わ され

誠司さん罰ゲー ム多すぎないか、 11 11 加減に しやがれ

になるかもしれない。 ドアが開いた。 そこには誠司が 彼女を逃すか? いた のだった。 コ レは喧嘩 \mathcal{O} 場面

それといろは最後のカードを使う」 「なんだトオルかよ。 驚かしやがって。 いろは入らせてやり ん な あ。 あ

んだぜ。 まさかこのカード罰ゲー 絶対に物凄く強いだろうなそのカードは、だって色が「ゴー ゲームだとカードだったら、モンスター プラチナカードがあれば勝てるのかな!!持って ムのカードなの? · が 出 てきたりするやつだ。 **,** \ ないけど。 ルデン」な

あ可哀想だろう誠司助けてやれよ。 ドだしたら勝てますよいろはさん。 てかいろはて誰だよ。 聞けてよかった。 て喜んでる場合ではない。 あ此処にいる彼女が てか震えてるじゃ いろはて 早くプラチナカー ん。 名前だっ コ

「あのさ誠司それは俺にとっては、 「最後の願いだ。 いろは。 コイツの彼女になっ ありがたい事だけど勝手に決 てやり

ぞ。

す。 説得するべきだろうか。 胸は俺にない。 仕方がない。 さてどうしようか途轍もないプレシ 此処はあれしかない逃げるだ。 辞めておくべきだろう。 この誠司に俺の最強の自滅技でトドメを刺 ヤー かっこ悪いし、 かけな やはり流石にそんな度 **,** \ で なら自滅技で **,** \ ろはさん

なんか出来ないじゃないか?」 「俺みたいな死んだ目をした人に 11 ろはさんが彼氏出来たとして 自慢

だろう。 それを教えたいし嫌なんでもない」 「なら自慢しなければいい話だろう。 だが俺はいつか好きになると信じているのだけどな!!俺は どうせ今は好きになる事は な

「うん知らないな。 「あの誠司君恋愛の先生みたいな感じだしてるけど振られたじゃ 分身がやった事で僕は知らないのさ!!て事でどう

どうする。 さて俺はどうする のが正解な のだろうか? 俺 \mathcal{O} 人生 で 選ぶ 決断 ĺ

が出て欲しい) (何も出ない。 答えられ な \ <u>`</u> 空白 のままだ。 此 処で 力 ツ コよ 答え

「ドクンパリン」

学校に通いたくなったかが分かる。 今の効果音で俺は催眠術が解けて忘れてい た自分を解放 して、 何故

自分から言うのは嫌だから後はいろはに任せる。) するにはこの条件が良いかもしれない。 (今俺が望むのは最高な陸上友達以外の友達が欲 だが俺は変わっていな \ <u>`</u> それを達成

う。 俺はこれに賛成してしまったけど、 いろはが決めた決 断 に俺は従

だから俺はその決断をな 方がな い事だから俺はいろはを泣かせたくな んとしても賛成するんだ。

ジを操作していたみたいだ。 「ピロン」 誠司からメッセー ジが来たのだった。 ポケッ ツ

「諦めたようだな。 ありがとう。 諦 8 てく れ 7

る。 従うとな。 コつけてるのだろうと自分でも思うよ。 てかこの誠司ムカつく だから俺は正直に返事する。 メッセージで打ち込んでる時恥ずかしくなる。 俺が諦める事を決めた事に気 いろはに全てを託すと、その決断に が なにカッ つ 7

と思えばいい。 「俺からの最後のお願いだ。 1年でいい?実際に試してみろ。 いろは叶えさせてく 好きな人が出来たためのお遊びだ れ。 頼む。 な λ な 5

「え誠司兄さんが始めて頭をさげた。」

ですか。 の俺人形ではない のでやめてほしい のですが無理で す か?

俺のイラついた気持ちももう無いよ。 む姿勢がとても良い。 それより誠司 は しっかり頭を深くさげて コレ でいろはに対してははじめてだと凄いな。 頼みこんで 11 る。

が俺は待ってる間どうしよう?とにかく可愛いと思っ のだろうか?そうする事にする。 いろはは、 必死に考えている。 その姿を見て可愛いと思 10分経過した。 7 おけば つ てしまう

分かりました。 誠司兄さん乗せられてあげます!」

「そうかそれは良かった死ぬかと思っ た。 ありがとうい · ろは。 年で

「おうそれでいいのだけど」 「比企ヶ谷さん、 一年で彼女は嫌な 0) で許嫁 で お 願 11 しますね

は許されない。 こうして俺の最高な友達を作る その説明は又いつかだ。 きっとそれがいい方向の タイムリミットはもう2 続く ため 未来に行く \mathcal{O} 年 6 仲間 ように願う。 ケ月しかな 1 ろはと誠 司 俺にミス のだから

俺 が 2 回も振られ てしまうのも悪くはない 0) かも

言ってから15分は外にいただろう。どれだけ中に入らせない さて俺は現在やっと誠司の家に入る事が出来た。 だがゲームでは良くあるパターンだ。 入り なと誠司 のか

そんな人の家に入るタイミングがよく分からないのだよ。 友達しかいないから仕方がないか。 家に入ってい いぞと言った事を忘れてしまう人物がいるんだよな。 まあ陸上

それで怖さを克服する事に成功した。 ビビってしまったが、直ぐ近くにいる、 を獲得した気分になった。 克服耐性スキルの名はこれだ して相当喧嘩が強そうで、迫力が誠司の5倍はある。 実際にドアを開けると、 若く見えるイケメンが仁王立ちでいた。 なんかゲームでよくある耐性 いろはを見て可愛いと思う。 目を見ただけで

「可愛さは怖さを吹き飛ばす」

ネーミングセンスがマジでダメだから出直してこい。 ないといけないからな。 (うーんなんか違うのだけど何が違うのかが分からな だがとりあえずコレでいいか) もっと短くし そもそも

誠司の兄らしき人物が話してきた。

?飲めるなら一緒に飲もうぜ小僧!!」 「俺は誠司の父で一色具咲だ宜しくな小僧。 小僧は酒飲める歳な 0) か

いくらいですよ。 (え、 誠司の親父だったの若すぎませんかね。 嫌太ってくださいお願いします。) もう 少し太っ

絶対言葉に出さないがな。

「ごめんなさい。 俺まだ15歳何ですよ。ごめんなさい

親父お酒飲みすぎだぜ。 俺と同じ歳だって言っただろう」

悪い少し酔ってしまってすまない忘れてた」

よかったよかった。 そうでよかった。 やや悲しそうな顔を誠司の親父がしていたが、特に気にしていなさ もし気にしていたらもう一度謝ろうと思ったから

「はいありがたく飲ませてもらいます」

「おうよ。 コッチだついてきな小僧!!」

ムや工事中などでよくあるパターンだ。 っと仁王立ちで封鎖されていた道が解放された感じだな。

は魔王城ではなく魔王もいない世界なはずなのだが。 咲軍を倒す!!の反対でとても親切におもてな それから30分後俺は無事に魔王城に着き、 しをし 誠司 \mathcal{O} 父率 てくれる。 11 る魔王具

がとても喜ぶのだから最高だろう。 だからいいらしい。 に知り合いはいても、 て正解だったと一番思う瞬間だ。 肉以外も含めて3 その時いろはが俺に何かを言う。 そして今日は焼肉で余った牛肉お持ち帰り出来るそうなので姉共 λ と今 俺はそこまで程贅沢な食事はした事がない。 Ħ 0) 晩飯は……1万円の牛肉を沢山買っ 0万円くらいかかったが、 コレが本当の金持ちだと感じられて凄 友達にはならなかったから寂しい事言った。 逆に行かなかったら損していたぜ。 久しぶりの初めての贅沢て感じ いろはに許嫁が出来たの そもそも金持 てくれた いから来 ち

中々 なんだろうな!!ギャハハアアー」 「あの比企谷さん。 「うはい分かりましたよ。食べますよいろは。 \ \ い関係じゃないか。 野菜もしっかり食べてくださいね♪」 俺てやっぱりそれに気がつくなんて天才 ガブリく、 苦手だ」

が出そうになるほど苦手だ。 キツイ試 「そこまで程じゃないだろ誠司、 ハアブ .練があるんだ。 口 ツコ リ] 嫌いだけど食べ 死ぬ可能性大の試練に挑むのだからこれく ハアこんなんで大丈夫か?俺はもっ 7 や つ たよ 気持 ち 11 ツ

案外調子

乗り

やす

1

性格

な

 λ だな

朋

れはこんなか

んじだ

らい頑張らないと。

試練はこれ以上にも

つ

と残酷

で本当に辛い。

そして天気や体調など考えず、 俺は転生する度にその試練を卒業式の日に強制される事になる。 異世界に飛ばされてしまう。 卒業式を終えて次の日の 0時になる

ら、 俺は死んでしまう。 もう殺されるシーンについて何も説明して 既にナイフに刺されたり、 交通事故に何台か巻き込まれたりして < れ な \ \ \ 気が つ

に転生する。 俺は泣きながら何度も死を悟って本当に死んでし そして何度も繰り返して何度もあがく。 ま 11 新

語が終わる。 一度も成功する事はなく高校卒業してすぐに俺にとっ それは友達との出会いがなくなってしまう事になる。 7

を転生した後に催眠術者の女性にお願いする。 俺の場合精神的に回復するには15年かかる。 その間俺は催眠術

それがさっき変な音が聞こえて催眠術が解けたのだ。

で1000人が挑んで3人クリアしていたのだと神に教えてもらっ だが勿論クリア方法はある事だけ知っている。 それ以外は教えてくれなかった。 それは同じル

れるかも分からない。 か分からない。そしてクリアした先には、このいろはの 俺はそんなクリア率0・3%に挑むのだ。 どうクリア す 1 る世界に戻 ば

このゲ ムから回避する事だけは 100%不可能だ。

残された時間は後約2年6ヶ月。 もう既に始まって いる のだ。

説明終了

からな 目的な て言わなくて **,** \ いだろう。 それ は 前 回教えて や つ

自分でも思うがめ 「最高な友達が 欲 んどくさい人間なんだ。 しい」隠す事でもない から言 つ てやろうと思った。

ビビっ るのだからバレバレだからだ。 はわかっている。 さて話を戻してここからが大事だ。これだけで終わる つ仕掛けてくるかを待っ 7 いるだけなのだろうか?確かに誠司より迫力が全く違うの 何故そう思う理由は単純にやや誠司が緊張 ているのだが中々こない。 観察力が低い俺が分かる のだからな。 してい

だからな。俺はよくわかっていない。

ない。 んと敬語を使わず誠司の親父と言う権限を手に入れたのだが嬉しく そう思った時やっと仕掛けてきたのは誠司の親父だ。 そんな弱そうな権限などいらないよ。 そう俺は、 な

「さてどうしようかな?このまま終わる訳がない うだな小僧」 と、 分 か つ 7 11 るよ

「ああ勿論わかっ ている。 そう来ると 分か つ 7 11 た

「えまだ何か企んでいるんですか?」

何を言っ と意地悪な顔をした誠司の親父が頼んできた。 どうやらいろはには気がつかれていな てくるんだ。 ここからが俺との勝負の時間である。 いみ た いだな。 さてここで ニヤリ

「お前に頼みたい のは、 いろはの勉強するため σ 問 題集を作 つ 7 欲

「今それ いか? が出来る か考えて 11 11 か。 紙と鉛筆が欲 11 \mathcal{O} だが 貰 つ 7 V

勿論」

があるから可能に出来る。 たら紙に書 俺はそんな事が可能 いても答えは分からな なのかを紙に書く。 いだろう。 勿論俺が普通の人間だっ だが俺には チ 力

る。 と、 て分かる最高 俺のチ 能力は使えな ート能力は何でも知って の能力だ。 **,** \ のが弱点だ。 だが紙とペンを持って紙に質問を書かな いるし、 それと使いすぎると気持ち悪く 未来や相手の行 動 0 事だ つ

が出来るため限界を直ぐに超えてしまい気持ち悪くなる。 それは普段考えて る事は一 つ な のだが能力を使うと沢 山考える

だがほとんど難しい話ばかりだ。 そして俺はその内容を理解するのは 難しい話以外なら出来る。

が勝手にやり方が分かり、自動で動くため作る事は出来る に車を俺が完成させた事実がある。 そして道具さえあれば車を作ることも不可 能 ではな のだ。 それ は体

て紙にひたすら書い て出た結果は 勿論 出来る 事 が わ か

と自信 ようになった。 何も問題はなく世界で一番頭がい 満々に書 \ \ . てある。 何故か最近この最強の能力に ** \ AIよりも最適な問題を出 感情が 出る

を丸つけをする必要があるそうだ。 かないといけないそうだ。 いるのかを観察しないといけないそうだ。 ただしその問題を作るには一週間に一度は 何故なら一週間でどれだけ理解 そしてその1日はどう勉強 必ずいろは に 会 できたか V して

(とんでもなく面倒くさいがいろはのためだと思 つ 7 頑 張 る

る。 字くらい書かれてあり最後には そしてこの問題集と宿題以外の勉強はやらない事をお勧め 何故それをするのかは難しくて解読不可能だったが 0 0 てい 0 文

「馬鹿なお前には理解不可能だろう。 中 学 1 年 レベル

ない。 と悪口が書いてあった。 さてもう情報はないし話すか? 本当の事だから言い返す事は 俺 には 出 来

「結論は出た。 不可能じゃないぜ誠司の 親父。 だが や つ ぱ I) な

な。 うよ。 ここでは嘘をつ それと少しこの仕事をしたくない気持ちはある。 <_ もしそう言ったらどう なるかを知る為に 素直にそう思 な

嫁は無して事でお願いします」 「やっぱりそうですか。 でもいろはが目で語っている気がする。 頼りにならない男ですね。 こんな感じだと思う。 ごめんなさい。

からな。 たいて言えよ。 なって40分くらいで無しの方向になる なんだよこれは振られてしまったよ。 振られる 俺はもう完全なる味方は出来ないよ。 の早いなあ。 俺じ のだから俺は何も言え やな く誠司に許嫁 だっ て許

そんな残念な事に気がついた俺に

「嘘つ 7 いるな小僧。 俺はそれが嘘だと経験で 理 解する が

親父きっと恥ずか やっぱりそれに気がつく俺は天才だなぁ」 しくて言えない だけ どだぜ。 ろはに惚れ 7 11

「うん分かったよイロ、これでいいだろうて事で勿論問題集は からかって見ただけだからな」 作るぜ

とイロも辞めてください」 うが無いのでまたの機会に出直してきて下さい、ごめんなさい。 と口説いているんですか。 「私をからかって楽しんでしんでいたんですか?も さすがに今の今だとちょっとときめきよ っと か ら かい

だ。 する作戦だ。 る事が決定した瞬間だった。 振られてしまったよ今回はガチで俺とイロ これはイロのからかい方なのだろう?もう一度口説か そして振られてもらうそんな作戦だろうか。 そういえばまたの機会て事 の物語は 1 は嫌間違 年 間 せようと で

ツイからな。 (俺は引っ掛からな いぜ。 自ら危険な行為をするのはメンタ ル 的 にキ

許嫁を認めるパーティをしてしまったのだから仕方がない。 れたとしても許嫁て事は変わらな ハア面倒くさそうな許嫁だけど可愛い い事は決まっている。 から気にしな だ そう つ てもう 5

俺が振られて落ち込んでいる所を無視して誠司の親父が 話 か けて

(ちょっとくらい んだからね。 肉食べ てリラックスさせて。 もうメン タ 0

「詳しくその事について教えてくれないか小僧」

「ああまず、俺は一週間に一度は必ずイロ 一週間 でどれだけ問題が解けたかを見て新しい の家に行かない 問題集を作る必要が

ある。ここで質問はあるか?」

「大丈夫だそれでいいだろう。」

「あの私が解けない問題はどうするんですか?」

「それ は大丈夫だ。 解説動画を俺の携帯に送られ る か ら大丈夫だろ

のさそれ俺も動画欲しいのだが くれ な

紙にはこう答えが書いてある。

「お前は俺がサポ 勉強は俺に任せて走る事を考えろ!!」 ートするから大丈夫。 そもそもお前は何もしなくて

るんだ。 (頼もしいけどさ俺ダメ人間になるじゃん。ダメ人間にさせ 川にでも捨てられるのかななんてありえな V° てどうす

心の中ではいろはと言おうと決心したのだった。 スがない毎週水曜日にいろはの家に午後5時に伺う事が決定した。 話を戻して又質問を沢山されたが問題はなく答えられ、 部活とレ

いこう。 かれていた事は驚いたがな。 いといけないプレッシャーが半端ない。 しっ かり問題集作りの仕事を果たさないといけな 契約書にサインしたし、その紙には、まさか小町 これは更に小町の為にもしっ いから頑張 の名前も書 かり つ 7

てやれの雰囲気になるのは嫌だ。 しっかりお願いをする(冗談) 後いろはとはメッセージで連絡を取り合う流れだが、 俺が今の ベストなタイミングで 無理矢理教え

「俺とメッセージで連絡しようぜ」

りには頑張ったのだぜ。 少し俺のキャラとは合わない気がするけどい 返事はどうだ。 いだろう。 結構:

「あっ、 す ちょっと一瞬ときめきかけましたが冷静になるとやっぱり もしかして今のって口説こうとしてましたか? ごめ 無理で ん

は土下座しかな の正直だ。 もう終わ った2度振られたから終わりだ。 11 \mathcal{O} か?嫌それは流 石に断りづらくダメだ。 もうおしま いだ。 三度目

「仕方がないですね。 「そこを何とかメッセー 先輩メッセージで連絡取り合いましょう」 ジで連絡取 ij 合うのをお 願 7) します」

取り合う事が出来た。 こうして3度目の正直で俺は二度振られたが メ ツ セージで連絡を



今日の振り替えりと俺の失恋後の物語

俺は今電車に乗って家に着くまで今日の事を振り返る事にした。

- (どうでもい まず最初に俺は地図感覚が全く無い事が良くわかった。 い情報から始めてしまった)
- 少女だった。 に何度も負けて罰ゲームをされてるそうで可哀想な少女だ。 俺を迎えにきたのは、いろはて名の茶髪みたいな髪をした美 その彼女は丁寧に道を教えてくれたそんな彼女は誠司
- 誠司の所為は違うのかな。 女 (許嫁) 3 にいろはがなってしまう。嫌最後は彼女も認めていたから その罰ゲームが原因となり、誠司の所為で俺のレンタル彼 その代わり罰ゲームはなくなる。
- ある事実は変わっていない。 誠司の親父と誠司は親子なのに似ていないがイケメンで
- のかを確認しないといけない。 な問題集を作るために、どう勉強してるのかとどれくらい正解出 日にいろはの家に行く事になった。 俺が いろはの問題集を作る仕事をする事になり、 行かないといけない理由は、 毎週水曜 来た

はの母親と会う時だけ緊張してるはずだ。 は行っていないので緊張は少しする。 妹と姉を除く女子の部屋には2、3回程度行った事があるが、 多分問題は無いと思うが いろ 最近

ろはと連絡先を交換するために 1 回振られ る が2 □ 目に

振り返るの終わり

まう。 振り返る事を終えた俺は何故か近くにいるカップルに注目してし 何故なのだろうと疑問を感じたが答えはシンプルだった。

と俺らの関係は偽物で直ぐに終わるのだ。 俺もいろはとこんな関係になれるのか想像してしまった。 そのカップルは帽子を交換していた所をたまたま目撃してしまい、 だがきっ

俺はそ んな想像をしているが、 目標の為に利用しているだけであ

り、 んな簡単に彼女が出来たら告白して振られていないはずだ。 恋愛まで発展するつもりは全くない。 そもそも自意識過剰で、 そ

たくな そう俺は いろは以外に振られてしまった男であるがまだ思 11

を考えると走りたくなる。 その変わりに振られた後に つ **(**) てなら平気だ。 平気な 0) だが

その日の夜から失恋のショックから立ち直るまでの 物語だ。

論焦げた唐揚げを食べたあとにな!! は俺になく、 と焦げた唐揚げを俺 振られた夜に事実を知った未来が俺に物凄く怒った。 走って気持ちを穏やかにさせようと思い外に行った。 の皿に入れた事があった。 それでも文句言う力 そしてわ

をしている一般人にも抜かされてしまう程調子が悪い。 は1時間軽く走った。 勿論泣きながら前へ進もうと走ったが、 加速はせず軽くランニン それでも俺

たから出た。 心配だったがレースに出て本気で永遠のライバル兄弟と走りた 振られた翌日1500メー 元高校最強の湯月もいた。 トルのレ ースがあ つ た。 調子 が 悪 か つ 7

しているがそれは仕方がない程凄く嫌で良いレースだった。 俺の 中でそれは最悪のレースであり最高なレースでもあ る。

湯月は3番手にいた。 永遠のライバルの兄(金一)は前から5番手で後ろに弟が控えていた。 俺はスタートをミスってしまい後ろから2番手くらい の所にいた。

なくて、 (先頭でゴ 俺は800メー 前に進めず最悪の ルして、 トル過ぎたのに、 振られた事を忘れ レースだと気付き困った。 順位が変わらず全然スピ てしまう インパ ク が が出

加速した。 そう思っ た瞬間 俺 の気持ちは俺 \mathcal{O} 体に伝わり、 あ りえな 11 と思う程

かった。)

て完成したと思った瞬間だった。 ここからは最悪な 更に興奮してしまう事だらけだ。 ースだとゴ ルするまで思わず最高 俺 の夢の 走り が今回 8

俺はもの凄い追い上げを始める。 後ろを振り返ると、後ろにいる選手達も俺に負けない様に加速す もうすぐ集団の先頭にたどり着

俺がまるで 「走る神様」 になった気分だった。

なのだ。 う人は少ない。そんな彼らが俺の走りを見て勝ちたいと思った瞬間 俺に抜かされても仕方がないと考えていた人が多く、 彼らは俺について行こうと必死である。 勝ちたいと思

考えずもっと加速してしまう。 を目指して更に加速する。 と物凄く迫力を感じるオーラを感じて興奮してしまいスタミナを そんな彼らを感動させた俺は、 俺の後ろからは 先頭に立ち巨大な集団と共に、 「負けない」「負けない」

激しく争っていたからだ。 今思うとスタミナを考えない 集団の先頭に俺がいる時には、 で走らないと先頭に追い 先頭争いを兄弟と湯月の3人が つ < \mathcal{O}

れる事は無く俺のペースに着いて来れた。 差を縮める事が出来た。 そして残り400メートルを通過して、 勿論後ろには巨大な集団がいた。 先頭から約2秒く 誰一人遅 らいまで

残しておきたかった。 残念ながら引き離す力はあるが残り100メー だがそろそろ限界の筈であると思い引き離す事にしようと決めた。 トルまではこの力は

部の力を発揮する事だけを考えた。 台で走らないと負ける。 そして残り1 00メートルもう差は1秒くらいだった。 それ以上遅いと負けが決定する瞬間だ。 最後の100メートルを1 ここで 0

たアーーゾー 後の二人と並んで残り1メートル。 つけエェ 「誰よりも速く前へ進め!! 一人抜かす。 もっと前まで行く。 そうすれば勝てる!! 届けば勝てる。 まだ二人もいる。 俺は最強だから 今最 つ

こうして最高の勝負に勝って、 失恋から立ち直る陸上バ カの物語で

何事だと電車に 1 る人達が俺に注目される。 何故だか

か。 りて逃げる様に電車から降りて去った。 電車の中で俺は叫んでしまったからだ。そんな俺は次の駅で降

はからメッセージが来たが適当に返事を返してベットで寝たけどな んて返したか覚えていない。 俺は走って家まで向かい、そのまま風呂には入って寝る。 丁度いろ

こうして俺といろはの物語の初日は終わる。 来週の水曜日まで。

電車でトオルが失恋を思い出してる時いろははどう していた!!

帰って来た。 比企谷さんが帰ってしばらくすると、 誠司 のお母さんが仕事から

た。あんな立派な頭を下げた人は見た事がなかったんだよな。 で更に反抗出来なくなってしまった。 本当は誠司に反抗したかったけど、まだ私には怖くて出来なかっ それ

話だった。 どうして私がパーティーに参加する事になったのは誠司

「焼肉パーティーするから来いよな」

かったので向かうしかない。着いたらすぐに と誠司が一言言ったら切られてしまった。 ヒドイと思いながら怖

「おい、俺の目が死んでる友達の比企谷を連れて来い」

頼りになりそうな感じだった。 と言われて逆らえず迎えに行くと、一つ年上の細マッチョで少しは

だけど誠司のお父さんの質問に答えた一言で幻滅した。 に頑張って話してくれた。 思っていた通り、期待に応えてくれて、 そんなトオルを見て私はときめきかけた。 怖い誠司とビビらず私の為 それを聞い

嫁は無して事でお願いします」 「やっぱりそうですか。 頼りにならない男ですね。 ごめんなさい。

なかった。 と誠司には言えず、目で比企谷さんに頼んけど当然思い 、 は 届 11 7 \ \

信じられない 誠司親子が嘘や恥ずかしがっているだけと言ったけど私は今でも

サヨウナラ。 で問題集作りを頑張ってもらって、 もうこれ以上考えたくないからとりあえず比企谷さんには、あくま 誠司も遊びだと思えば良いと言ってたし良いよね。 来年にはきっと会いたくないから

る。

で、

間が早いのでもう寝てしまっている。 彼女の車に乗ったのは私だけで二人 しか 11 な \ <u>`</u> 誠司

その時誠司のお母さんから話かけられた。

「どうだったいろはちゃん。トオル君はセイジちゃんの言う通り優 い人だったの?」

ないがキレると怖い。 相変わらず優しい声をして いると分かる。 誠司のお父さんより2倍怖 **,** \ て銀髪の美人で怖 11 7) のだから上 \mathcal{O} 様 は 見え

「怖い人ではないけど優し い人でなさそう」

「そう、 があるからよ」 それは仕方がないことよ。 男には面倒臭い意地とかプライ

「どうやら彼には当てはまらないとなると分からないわね」 似たような事を誠司親子も言っていたけど、 やはり違うと思う。

(なんかこれじゃあ、 比企谷さんが特別な男の人みたいになっ 7 11

と言っていたわよ。」 「でもセイジちゃんはきっと運命の人だと思っ イジちゃんは、 いろはちゃんが彼氏が出来たら別れるようにしてやる て いる筈よ。 だっ 7 セ

と思い始める。それと同時に幻滅するかもと矛盾してる思いがある。 まさか私が納得してる事はそうかもと思い早速聞 少し引いたけど、それなら比企谷さんを少しは期待しても良 11 てみる。

「もしかしてそれで私のママとパパは説得されたの」

きったのだから。 「ええ当然じゃない。 そして彼の凄さを語ったのよ」 誠司が選ぶいろはの男は彼し か 11 な

私のママとパパは誠司の事を信用している。 そのため 説

言うものなんじゃないの?それを言うのは誠司が言う事だったの? は簡単だったみたい。 普通こういう時は『娘はやらん!』とかパパ

が聞く権利はある筈。 何度も褒めるのはしたくないけど凄いと思う。 ここまで信頼されていたら更に説得しやすくなる。 どう説得したの 誠司の信頼を か私

「ねえ教えて」

「嫌よ」

が多いから怖い。 ないから話やすい。 ここでもう一度言ったらキレ でも、 誠司のお母さんは二人に比べたら怒ったりし られてしまう。 誠司の家はキレる人

でも向こうから連絡して欲しいから少し待ってみようかな。 そう思っていると急に比企谷さんにメ ツ セ ージを送りたく

「いろはちゃん」

「ええ、ビックリさせないでよ」

いきなり誠司のお母さんに話しかけられて驚いた。

しよう。 「ごめんなさい。 いろはちゃんの顔を見れば直ぐ分かるわ」 今メッセージでトオル君に送ろうとし 7 いたので

「なんで分かるの?」

ら誰に連絡するか、 「付き合って1年の時具咲ちゃんが浮気しな 分かるようになったの」 心 配で、 気が つ た

違う、私は比企谷さんより素敵な人と出会って、素敵な人と恋をする。 るはずだから簡単。 なのに心配しているんだ。 比企谷さんには申 誠司のお父さんは、 し訳な しっかり大切にしていて浮気する心配 いけど、 私も比企谷さんの事を心配するの 比企谷さんより素敵な人は沢山い が かな?

勝で主導権を貰うのよ。 いろはちゃんから送ってあげたらト オル君喜ぶ λ じゃ な 先手必

送信していた。 いるのに気がつ 比企谷さんの主導権を奪っ いたらスマ ホを出して 7 も何も良い いて、 事は 'n な セ いはず。 ジを打ち込んで 分か

【比企谷さんは何しているんですか】

言わな も言ってしつこいからマシかな。 少し経っても返信はこなかった。 いけど、チラッと時々覗い ·ている。 誠司のお母さんは言葉では何も ママだったら見せてと

「着いたわよ」

グは良いのか分からないけど、 ダメかなと思いながら車から降りる時にスマホが鳴 し残念だった。 結局比企谷さんか らメッセージが来る前に家に着い 覗いたら違う人からのメッセージ った。 ていた。 タイミン で少 もう

事がな ど彼女は同じクラスのため話す機会は沢山あってメ ジがきた。 学校で唯一親友と言 なんでこんなタイミングで来るんだろうと思った。 っても良 いかなと思う網 ちゃん ッセージで話す か 5 メッ だけ セ

れた。 分の部屋に戻って対応すれば良 そんな彼女からメッセージ が来たから大事な話だと思う。 いかなと思 いスマホをポケッ トに入 なら自

「私の初恋の人に偶然会った。 しばらくして、 落ち着い て話せる環境が出来たから 中身を見た

だと思ったけど二度見る事はから違うみたい。 事があるのは今回が2回目で一度しか会った事 は声がデカく、 たった一文で私は実際に存在したんだと驚 細マッチョの イケメンだと言っていた。 いた。 がないみたいで 彼女の それも会った 初恋 \mathcal{O}

続きはどうやって会えたかを書いてあった。

「総武高校 の制服を姉から借りて着て、 その彼を探 して **,** \ たら出会え

だってほら2回も会ったと書いていた。 彼女は一度も姉の話をしてる所を聞いてい (仕方がないけど、 そして少しおバカな綱ちゃ 又驚くことが書かれ 少しは姉の話してくれても良いじゃないかな) 7 いた。 んの姉が総武高校だとは知らなかった。 まさか 網ちゃ ない 、んに姉が から仕方がな が λ て。

最後にどんな風に会えたのかの続きを書いてあった。 (綱ちゃんが総武高校の制服を着たなんて

なかった。 「ナンパされていたら助けてくれてカッコ良くて固まってお礼を言え ていないから」 そんな事誰にも言わないでね。 いろはちゃんにしか言っ

返信が来た。 んの顔が見えたけど気のせいだよね。 私も素敵な人と恋したい。 返事返そうと思ったけど、 言わない そう思った恋する相手が一瞬比企谷さ て返事するしか考えつかな そう思った時比企谷さんから

\ . 少し君と関わりたくて言えなかった。 で許嫁は無して事でお願いしますと君が言っていたのに。 【俺は走って家に着いたら速攻で風呂に入ってい もう一回言うけどごめんなさ た。 後ごめ 嫌でもう んね、 目

ょ 「えええ。 先輩からか っているんです か。 後 心読ま な 11 で 下 さい

気がついたら叫びながら返信を返していた。

【私と関わりたいからなんて言われてもきらめいたりしません から

そう送信して直ぐ音声のメッ セージが送られた。

おやすみ」 「俺はときめかせてやる。 絶対に言わせてやる。 もう眠 11 から寝る。

絶対言いませんからと送信しようと思ったけど出来なかった。

`

誠司は 由はなんだ!? トオルと出会ってすぐに、 いろはを紹介した理

や俺が勘違いしていろはに精神的なダメージを与える男なら嫌だ。 のトオルて男はいろはと許嫁になったのかが気になるからだ。 俺はゴールデンウィーク最終日、 トオルに電話をかけた。 なんでこ

電話は慣れていないから緊張している。 まで来ているのに押す覚悟ができていない。 電話を掛ける事は決めて覚悟は出来たつもりだった。 ボタン一つ押せば繋がる所 だが、やはり

深呼吸をして勢いよく電話が繋がるボタンを押した。

ルの声が聞こえた。 俺の繋がれの思いをトオルが感じたのか直ぐに電話が繋が V) トオ

「なんかようか誠司? て事じゃないだろうな?」 ……もしや喧嘩したからスケットとして来い

けないから安心しろ」 「俺が喧嘩を直ぐする馬鹿に感じている のか? そんなことで迷惑か

てるのか」 「じゃあゴリラが近くにいてそいつをボコボコにした話をしようとし

出すしかない。 メージしかアイツにないのかよ。 コイツなんで喧嘩の話ばかりしているのだ。 これは話が進まない。 全然俺ケンカするイ 俺から言い

聞きたかっただけだ!!:」 「するかよ。 俺が聞きたい のは何で **,** \ ろはの許嫁を引き受けたの

事を返してくれた。 鳴った声で言ったからその気持ちも分かる。 どうやらトオルはびびってしまった様だ。 優しいやつだ。 だがトオルは直ぐ 確かに迫力があ つ て怒 に返

「ハア仕方がないか。 るだけだ。 自分で言っておきながら最低な男になったもんだ」 俺の最高な友達を作る為に ろはを利用

「なんのことを言ってい るのかさっぱり分からない」

ないと分かる。その理由は今からトオルに言う。 俺は動揺している声を聞いて安心した。 この男は絶対悪 い男では

らは友達の知り合いとなる為友達になるのは無理だ。 「まずそもそも友達を作る事は出来ない筈だ。 出来たと 7 相手 か

だ 「それは確かにそうかもしれない。 だがなら俺の野望は何だと言うの

る時点で怪しい」 「野望て俺は言っ 7 11 な \ \ \ 狙 いだと言ったのだが、 野望と言 つ 7 11

再開させる。 トオルは無言状態となり 会話は止ま つ た、 俺は無理矢理 で も会話を

りたくて無理矢理言い訳を考えた。 「友達を作る事は不可能だと気が つ そうだろう年下好きなな男さん \ \ てい た筈だが、 11 ろはと関 わ

「分からな かもしれない」 それ が本当の 理 由な \mathcal{O} かが分からな 11 が、 そ h な感じ

出来たから満足だ。 さて、 もう少しこの話を続けても良い ただ隙があれば話を再開するつもりだ。 が、 即答で答えを聞

「なぁ、 お前はどんな気持ちでいろはと関わるつもりなのだ」

かな」 「俺は【レンタル彼女】だと思っている。 アニメの主人公みたい な感じ

「なぁ気づ **,** , 7 V) る か。 彼女にした **,** \ ともう言葉で言 つ 7 11 るぞ馬

を見てこの世界に飛ばされたけど」 それと【彼女、 お借り します」て懐 か し V) 第2シリー ズ 0

て、 沢山して女子をナンパする日々だ。 そう俺は転生者であるのだが自分でも忘れ 何も困った事がなく生きているから前世と変わらない。 勿論その内5人しか関わっていない。 全員ヤンキー しな。 今では20人彼女はは そろそろ他 てしまうのだよ。 \mathcal{O} ケンカを 15人と いるだろ だっ

へえそうなんだな。 俺は一 期しか見て 11 な \ <u>`</u> 彼女て言っ ても偽物

だから彼女にしたいとは思わない」

は主人公と違い特に彼女いなくて 「レンタル彼女て思っている人は、 て感じになってるのではないか?」 困っていないだろう。 本当に好きではない のかな!!お前 やはり好き

を好きな 「さっきも言ったけど分からないだろう。 ていい」 分からないよ!! のか直ぐに答えは出ないのだから。 だけど俺は恋愛をしてる暇がないから分からなく それは俺 だっ てまだ初日だぜ。 が本当に彼女の

恋愛する暇はなく彼は走ることにしたのだろう。 恋愛する事が嫌なのではなく失恋したくな て入院してスタミナは大幅になくなった事が原因だ。 トオルは失恋した事がある様に言 っている様に聞こえ い男の気がする。 それは車に轢かれ る。 だけど まるで

プロを目指す男の挑戦である。 ではなく、 それを少しでもカバーする為に練習をしないといけな 彼に恋愛させたい。 それが良い方向に行く事を願うだけ \ <u>`</u>

「最後にお前は恋はしたいのか?」

な。 タルの為にもしない。」 したくない。 告白していろはいや違う。 どうせ振られて失恋するだけだとわかって 告白して困らせたくな 1 いる 俺の メン から

トオルは動揺しているから、 11 ろは \mathcal{O} 事が や は l) 好きなのだろう。

「ありがとうな。さようなら」

「あばーよ」

やはり俺の決断は間違っていない。

ここからは何故 トオルを選んだのかに つ **,** \ ・てだ。

〜あれは今から約1ヶ月前の入学式の日〜

来た。 俺はムカ いは運命的 つ な感じで、 7 俺がナンパしているとトオル が して

「ナンドトコラ」

彼女の知り合いだとは思えな そう叫ぶと大抵の 人間は逃げてしまうが、 関係がな この男は止めに入った。 それでもトオルは諦

れな めず説得をする彼を見て感動した。 いけどこんな男と会った事がな 案外感動しすぎだと思うか も

動した俺にとってはどうでも良い事だ。 11 そんな男と出会い俺は直ぐに珍しく諦めた。 相手を教えてくれたのでいつかナンパするつもりだ。 それに俺がナン 滅多に な パすると良 11

感動したし、 校に逆方向に走っ と突然トオルは走り出した。 感動する 風だと思うほどトオルは速いかった 出 来事 てしまう。 が 1 0 その走るフォームを見て素人な俺だが 分後 行く方向はトオルと同じだった。 くらい にあ った。 俺は 感動し て学

る事が出来なかった。 は出来なかった。 何故走るのか気になって走って追いかけたが、 遠くて走っているのに離されてしまい、 トオルに 追い 遂に目で見 つ <

恋愛させたいと俺はそう思ってしまった。 まった事がわかった。 オルは馬鹿な事をしたのか考えながら救急車にスマホ そして電話をしながら、トオルは犬を助ける為に車に轢かれ で確認した時にはトオル 俺はそんなトオルに感動した。 が 車に轢かれ 7 しまって で電話をした。 な 11 んとし 何 てし ても

無事に救急車にトオルは、 運ばれて安心して学校に向 かう。

ここまでがトオルとの出会いの話だ。

ここからは俺が動き出していろはを紹介する 物語だ。

トオル たから3日後に向 俺はたまたま救急車から名前と何処の病院に運ばれたかを、 が いる事が分かった。 かった。 俺の耳は良かったら 関係者に聞 聞こえ 7

お見舞 そしてトオル い品を見て確認出来た。 妹だけで、 くて連絡が取れない 0) 個室で出会い、彼女は 連絡を取り合う友達が 可能性もある。 1 るのかを確認す ない事がわか だが彼女は った。 á, 11 な 勿論聞 11

入っていた物 だが妹 の未来が持って来たのはお見 舞 11 品で はなく、 バ ケ ツ 水

才 と相棒と言える程仲が良 11 関係とな った。 まさか

だったみたいだ。 な一瞬で友達になるとは思わなかった。 俺は想像していた以上の男

最後にバイトの話をして引き受けてくれそうな感じではない

「バイト代が出るし原作キャラに会わせてやる」

も言わず帰った。 ないことに悩んでいた。 会える事が条件としてよかったみたいだった。バイトの内容は教え そう言うとトオルは真剣に考えていた。どうやら原作キャラが だが怪しいと言われてショックを受けて何

た。 次の日再びトオルの部屋に訪ねようと思い小町と出会う事となっ

「お兄ちゃんの知り合いですか」

と聞かれた俺は頷き直ぐに返事を返した。

「ああそうだ俺はトオルの友達だ。 ほら写真があるぞ。」

病院の中で撮った写真を見せると納得して俺が誰だか理解したよ

「誠司さんですね」

「はい俺が誠司です」

この話はいつか又続く

ど終わってからはそこそこ楽しめた。 かなと思うほど長かった。だけど病院生活は楽 の学校生活はやっと始まる。 本当に長いどれくらい待てば良 しくな かったけれ 1

る。 も俺はまだ答えは出ていない。 だがきっと正解の選択をした場合のみ良い事が起きると思う。 でも悩んだ先には何かが見えて、良い事が起きそうな感じはす ルデンウィークには誠司から電話が掛 なんと答えれば良い かって来て驚 のかが分からな

だけであれから全く進展がないみたいだ。 じゃなく、 お金がない。 他は姉にサングラスを買いたいから買ってと言われ、買ったから今 小町にしろよ。 何だよ彼氏ができたから凄 あそうだった、 彼氏ではなく、 いのかよ。自慢する相手俺 姉の初恋な

だって元からツンデレはデレている筈だと思う。 はデレるかが分からない。 かのどちらかだと思う。 だって進展がある人はアニメで恋してる人は良く笑うか、 姉の場合元々ツンデレだから笑うと思う。 だけどその相手に ツンデレ

(じゃあ俺なの)

と思いたくなるけど多分違うと思う。

ら俺にしない事をお勧めする。 スを選ぶから考え方が違う。もしかしたら男が選ぶのが知りたいな 本当に俺の姉なのと言いたくなる程だ。俺だったら好きなサングラ 更にサングラス買うのを俺に選ばしてくるから全く理解できない。

だってセンスないし、 この美術 の作品はそう思う。 一度凄いと思っても二度みたら酷いと思う。 先週の絵の具の続きをする時なん

(なんだこの下手くそな絵は、 いたのに) 酷すぎる。 良 1 作品 が出来たと喜ん で

解が出来ない。 ンだと思うよ。 そう思ってしまう体験てな なんで 11 いと思う作品が悪く いかな。 俺 の経験では良くあるパ 感じる $\hat{\mathcal{O}}$ か が今で も理

\ <u>`</u> てしま ここから話を戻してやっと学校に登校出来る喜びで、 11 コ マ 7時には自宅を出た。 ーシャル終わり。 ただの無言のコマー ーシャル はつまらな 再び興奮し

悪口を黒板に書く相手がいない。 待っても早く来すぎて誰も来な ので黒板で落書きを開始する。 学校に着いて自分の席を確認して座った俺は今、 勿論悪口は書いていな ひたすら待ち続ける。 準備を済ませた。 いし、 暇だった そもそも

しれな りそろそろ落書きを消して待たないと怖い 俺に知り合 俺の目は死んでいる様に見えるから余計にな。 いは居ても陸上友達で嫌い な人は誰も居な 人だと勘違い される \ \ \ \ そ かも

しま 気配はない。それからは、とにかく椅子に座り続けて話してくれるま で待ち続ける。そんな予定なのだがいつまで経っても時間が過ぎて 落書きを消し終えた瞬間に、俺のクラスが一人来たけれど全く い朝の会になってしまった。 話す

期待 分がそう思っても他人に言われると嫌だ。 先生は俺が入院していたことを忘れてしまい、 いと言われてしまい、そうかもと思ってしまったがムカつく。 した俺がバカみたいだった。 それはそうで走る事以外存在価値 自己紹介はされ 自

集ま も入院した事が伝わ っ の会が終わると、 ている。 どうやら上手くいかない。 入院した俺には参加する権利などなかった。 っていない時点で不利である。 既にクラスの中心となる人物は決まっ 逆転する方法な 7 そもそ て、

関係にしてしま そう言う時こそ罰ゲームカード 勿論冗談で偽物の関係で終わるはずだから意味がな いれたくない。 ったのだろう。 そんな考えの俺が のゴールドを使 何故 いろはとそんな偽物 つ 7 友達を作 \ \ \ そんな りた

結局答えは出ず 1時間目が始まるも授業に集中せず、 ひたすら考え

続けるも答えは出ない。 と望んで かった。 いる。 俺は大嫌いな偽物の関係を否定したい もしかしたらもう少し偽物の関係で のだが、 出来な いたい

嫌だ。 俺は見つける事ができない。 それが今できる解答か 本当に矛盾しているよ。 つまらな そんな簡単に答えが分かる方がもっと も つ と違う答えが 欲 し 11 け

せず、 だの思い出作りの為にしているのだ。 俺が高校卒業して死ぬ事がなければそんな事 本当の恋をするんだ。 だけど俺は思い出作りの為に はしな い筈。 そう、

と終われない。 その為に死のループで死ぬ訳に は 11 かな \ <u>`</u> もっと長生き な V

落とされても死なない。 の世界に になったけれど負けな すると俺は卒業で 飛ばされる。 は 車に轢かれても死なない。 無 俺は死なないから大丈夫。 いのにワー ナイフに刺されて - プされ 7 しまう。 いたけど死なな 5 階のビルから 試 練に **,** \

こうして俺はクリアしたのだ。 死なない。 だっ て恋するには高校卒業した後が大事なのだから負けな ドラゴンボールの悟空のかめはめはを受けても死なない。 1 から

の内容は単純で生きていたい気持ちがネガテ 11 \ \ \ 俺はそんな事が出来なかったけれど今俺は出来たのだ。 イブ な感情より

て元の世界に戻って来れた。 恋は 人を強くすると言うけど本当の事だった。 俺の求めた答えの為に頑張るのだ。 俺は 無事 ワー

があ 俺は死なない。 つ たから俺は死なない。 だって俺は本物の彼女が欲しいから。 死なな い俺の物語は続く。 そ の気持ち

やはり俺は恋したい男だから。

の恋と本物 の恋どっちが好きですか!! に つずく